（別添3）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4470102080		
法人名	医療法人　善和会		
事業所名	グループホームおおいた南　1階		
所在地	大分市大字田原字深田９３６番地		
自己評価作成日	平成２３年１２月１９日	評価結果市町村受理日	平成２４年４月２５日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町２丁目１番４１号
訪問調査日	平成２４年１月１３日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者には常に尊敬の念を持って接し、思いや願いに寄り添うよう心がけています。ホーム内はいつも明るく笑顔で家庭的な雰囲気を作りたいと思います。
看護職員を配置し入居者様の健康管理に気を配るとともに、介護度が上がり、若しくは疾患の悪化が見られても住み慣れた場所で生活し続けられるよう併設のクリニックもと連携を取りながらケアを行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・医療と介護の連携を重視し、法人の医療機関のそれぞれの責任者もグループホームの運営に協力している。入居者の健康状態の把握はもとより、今後のケアの方向性についてもグループホーム管理者と話し合いを行ってケアの質の向上を図っている。
・介護職員の入居者や家族に対する対応は丁寧で、理念に沿ったケアが行われている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の２/３くらいの
			3. 利用者の１/３くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に１回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
		○	3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の２/３くらいと
			3. 家族の１/３くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の２/３くらいが
		○	3. 職員の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の２/３くらいが
			3. 家族等の１/３くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの目指すケア･方針をわかり易い言葉で理念として掲げている。	理念は誰にもわかりやすい言葉で書かれており、新しいパンフレットの表紙にも大きく書かれている。法人全体の研修会でも、グループホーム独自の取り組みとして実践状況を話すなどしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回地域交流会を開催し、地域住民をホームに招待して入居者と一緒に活動したり、昼食を共にするなど交流している。法人が開催する盆踊り大会に入居者全員が参加し、地域の人々との交流を深めている。	地域交流会を年に1回開催しており、近隣の人にチラシを配布するなどして参加を働きかけをしている。法人の盆踊り大会には入居者が全員参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会の場で、地域の方々が入居者と一緒に催し物を楽しむことで、認知症の方々への理解を深めていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、当ホームの現状や行事などについて報告している。メンバーから率直な意見をいただき、運営の改善に生かしている。	2カ月ごとに開催されており、議事録も整理されている。内部参加者に比べて外部参加者が少ないので、民生委員への参加を呼び掛けて次回から出席してもらえることになっている。	色々な視点からの意見がもらえるように、地域の参加者が増えるような働きかけを今後も続けることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出し、活動状況を把握していただくようにしている。運営上の疑問点がある場合など市町村担当者に連絡し聞くようにしている。	市町村の担当課や管轄の地域包括支援センターと密に連絡をとって、事業の状況を把握してもらっている。また、医療連携加算取得についてのやり方を聞くなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲示し、勉強会でも取り上げている。身体拘束を行わない対応方法を職員で話し合っている。	身体拘束の弊害を職員はよく理解しており、施錠はせず、出ていく人には一緒に駐車場や通りまでついて行き、自然な帰園を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加し、その報告を勉強会で実施し理解の促進に努めている。		

事業者名:グループホームおおいた南　1階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し、その資料を閲覧している。入居者の中に成年後見制度を利用している方がおり、ホームとしての対応について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約の際は利用者やご家族が疑問や不安に感じている事を会話の中から汲み取ったり、「いつでも相談して下さい」と一言添えるなど、納得･安心していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時等に要望等をお聞きしている。また、玄関にアンケート用紙を設置するなど、常に意見を自由に発言できるよう家族との会話を心がけ、意見があったときは職員に報告、改善に努めている。	電話連絡時や面会の時に家族に意見を聞き、対応している。苦情があった場合は、受付様式に詳しく記載し、職員間で話し合いをし、相談者に説明して改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中での職員との意見交換や、月1回の勉強会の場で職員全員で話し合い、ケアや業務の改善を行っている。	職員と管理者との話し合い、雑談の場などで意見交換して改善すべきことを話し合っている。職員の提案で記録の記載方法を改めたことなどもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	代表者の下にゼネラルマネージャーを配置し、代表者と職員との橋渡しをするとともにグループホーム職員の統括を行っている。必要に応じて現場への指導を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職場に流し研修への参加を促している。研修に参加した職員からは研修報告書を提出させている。月1回法人全体の研修会が実施されている。それらの内容をGH内で月に1回勉強会を開き全職員に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所･グループホーム連絡会に参加し、研修等を通じて交流を行っている。		

事業者名：グループホームおおいた南　1階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査や入居の際に、本人・ご家族から生活状況や心配な事、不安に感じている事などできるだけお話していただき、入居前に理解を深め受け入れる工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で何故グループホームに入居したいのか、これまでの経緯や何を困っていて何を求めているかを話していただき受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、現在の状況、困っている事、家庭の事情など話を聞ける範囲で伺い、必要であれば併設老健や関連施設の相談員やケアマネジャーに繋ぎ、その後も連携を図るよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを持って接するように心がけている。業務の都合を優先させるのではなく、本人の意向を汲みながら自分で出来る事は自分でしていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との繋がりが途切れないよう行事への参加を呼びかけるなどしている。また、遠方のご家族には電話や広報誌などで近況を伝え、繋がりを持てるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡の支援をしている。誰もが気軽に訪問でき、利用者とともに居心地良く過ごせる雰囲気作りを心がけていて、地域に住む昔馴染みの友人が訪ねて来る。盆や年末年始前にはご家族に一時帰省の呼びかけをしている。	家族や知人への電話連絡を支援し、取り次ぎを行っている。また、家族には、一時帰宅、外出、外泊などを勧めている。通院で自宅の近所を通ったり馴染みの場所へ立ち寄ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士が過ごせる配慮をしている。レクリエーション等で、孤立しがちな入居者と他の入居者が交わる機会を持てるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設へ移られた方については様子を見に行ったり、会えば声をかけるなどしている。他の事業所へ移った方については、機会があればご家族や先方の職員から様子を聞いている。退居後でも相談があった場合は支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で思いや意向を把握するように努めている。意思疎通が難しい場合でも、表情や仕草などから思いを汲み取るよう努力している。また家族とも相談しながら、利用者本意になるように努めている。	日々のケアの中で知ったことをフェイスシートに書き込み、3ヶ月ごとに全職員で一人ひとりについての情報交換をし、利用者本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や入居する際の面接において、ご本人やご家族からこれまでの暮らしぶりについてお話を伺い、アセスメント表やフェースシートに記入し全職員が把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の昼夜の身体状況、生活状況など特徴や変化を具体的に記録している。日々の生活の中で個別の生活パターンをつかみ、一人一人の個性を尊重し、個人に合った活動を選別している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族との日々の関わりの中や、定期的に行う面接の中で意見や要望を聞きケアプランに反映させている。主治医やリハビリ担当者の意見も取り入れている。また、本人の意欲向上に繋がるようなプランを心がけている。	毎月1回、全職員が参加してモニタリングを行っている。3ヶ月ごとの見直しと柔軟なプランの変更・追加を行って、家族にも説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応した職員が介護記録に記入し、共有できるようにしている。また、ケアの変更は申し送りノートに記入し、全職員が確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護職員の配置やかかりつけ医との連携など、医療連携体制を活かして受診の支援、入院の回避等に努めている。又、外出や行事の時などホームの職員だけでまかなえない時は他部署に応援を要請して入居者のニーズに応えている。		

事業者名:グループホームおおいた南　1階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レク活動やボランティアでホームと地域との連携ができている。入居者個人とのつながりは今のところない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に併設クリニックとなっているが、希望がある場合は他院への通院援助を行なっている。他科の医療機関を受診する時は医師に紹介状を書いてもらうなどの支援をしている。	入居の際に話し合い、希望のかかりつけ医がある場合はそちらを選択できる。情報提供などの通院援助も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定刻にバイタルチェックを行い異常ある場合は日中はホーム、夜間は併設クリニックの看護師に伝え指示をもらうようにしている。日常の様子を把握し変化が見られた時も報告し、医療的処置をすみやかに受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と相談しながら医療機関への情報提供を行っている。入院後はお見舞いに伺い本人の不安を少しでも軽くするよう努めると共に病院関係者から情報をいただき、退院に向けた連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を定め、家族に説明している。当ホームで出来るケアと出来ないケアを明らかにし、家族が望む場合は出来る限りグループホームでのケアを行う。	入居時に重度化について話し合い、グループホームでできるケアを説明して家族の希望を聞いている。職員にもターミナルについての講習を積極的に受講させている。説明書や同意書などの書類も整備されており、気持ちが変わった場合は、意向を替えられることを告げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、マニュアルを整備し、全職員に熟読を促している。また、老健と合同で研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内において災害対策実行委員会を立ち上げており、マニュアルや緊急連絡網を整備し、避難訓練を定期的に行っている。	年に2回、災害避難訓練を行っており、火災、風水害、地震の3つのパターンを想定して行っている。非常時連絡網やマニュアルなども整備され、地域の人への働きかけを行っている。	

事業者名：グループホームおおいた南　1階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の違いを尊重し、さりげない介助、本人の返答能力に応じた言葉かけ、本人にとっての「現実」を否定しない等の配慮をしている。個人情報については個人情報保護方針を定め、適切に管理している。	人格の尊重やプライバシー保護の研修を行い、日々のケアの中で実践できているかを話し合っている。個々人の感情を大切にして、入浴も同性の介助で行うなどの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉だけでなく表情や仕草を観察し、思いを掴むようにしている。必要に応じてこちらから声かけをして思いを引き出すように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が楽しく住みよい毎日を送れるように入居者個々のペースを保つようにしている。外出、入浴など一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの服をご家族にお願いしている。身だしなみ、お化粧などのおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は老健の厨房で作った料理を利用者と職員が一緒に配膳している。週に1回の料理日に利用者の好みをメニューに取り入れている。また、おやつや漬物作りを行なっている。	普段は併設の医療機関から運ばれてくる食事であるが、週に1回はグループホームで利用者と共に好みの物を調理している。利用者と職員が同じテーブルについて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事量、食事形態、特別食等を職員が把握している。老健の管理栄養士が栄養バランスなどを管理している。毎日摂取水分量を記録し、必要な水分を摂取するよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは個々の状況に応じて行っている。うがい、歯磨きを習慣づけ、職員は自分で出来ない方の介助を行い、自分で出来る方に対しても必ず確認を行っている。入歯の消毒を週2回行なっている。		

事業者名:グループホームおおいた南　1階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、立位の取れる人は、できるだけトイレで排泄してもらうよう支援している。	排泄パターンを把握し、車いすから立てる人や座位を保てる人はできるだけトイレで排泄してもらえるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水をすすめて便秘の予防に努めている。必要な方には主治医に依頼し下剤を処方してもらっている。排便の記録をし、便秘には早めに対応するように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、体調などをみて臨機応変に対応をしている。ＡＤＬの低下によりホーム内での入浴が困難になった方については併設老健にある機械浴を利用し、安心して入浴していただいている。	週に3回の入浴であり、嫌がる人も2回は入浴できるように、タイミングや声かけに配慮している。入浴が困難になった人には併設の老人保健施設の機械浴を利用して、清潔の保持に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく臥床せずに活動して過ごすことで昼夜の区別をつけ、安眠対策としている。夜間不眠傾向のある入居者にたいしては　医師に相談して眠剤を使用するなどして、夜間安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋をファイルしいつでも見れるようにしている。特殊な薬剤については看護職員から指導を受けている。内服確認を正確にし、異変に気づいた場合は看護職員や医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力･機能に応じて力を発揮してもらえるよう仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えている。その人の趣味･特技に合った余暇活動を行い、楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には出来るだけホーム周囲の散歩に出かけるようにしている。一部の利用者は週1～2回車でリハビリを受けに出かけており、外出の楽しみの一つとなっている。	車での外出行事のほかに、週2回程度は散歩や小さなドライブ、外気浴などを行っている。何人かは少し離れたリハビリ施設まで車で通っていて、外出の一つとして楽しみにしている。	ＡＤＬの低下により外出のできない人が増えてきたが、気分転換や刺激のためにも、もう少し頻回な外出支援の工夫が期待される。

事業者名:グループホームおおいた南　1階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力の低い入居者が殆どであるため小遣いを預かり、使用状況を小遣い帳に記録している。職員が支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で会話を出来る人がいないため、直接電話をするような支援はしていない。出来る範囲で年賀状を書いてもらい送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーや手すりの設置を行い、車椅子や歩行不安定な方にも配慮している。採光はカーテンや照明で調整し、廊下や食堂には季節感のある飾り付けを行なったり、季節の花を活けて心和む空間を作っている。	リビングの窓からは近隣の住宅や畑が見えて、季節感や生活感が感じられる。採光や温度にも配慮している。移動にも十分な空間がとってあり、安心して過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂のコーナーにくつろげる居場所作りとしてソファ、テレビ等設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具をご自宅から持ってきていただいたり、ご家族の写真を飾るなどして居心地良く過ごせるように配慮している。	テレビやソファ、衣装ケースなど、個々の部屋毎にその人らしい設えとなっている。家族の写真なども飾ってあり、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等には手すりを設けると共に段差をなくすように工夫してバリアフリーにしている。		